



魔法の質問やまがたキッズ

子どもたちにもっと勉強してもらおうと、ついガミガミ言ってしまう。「大人にやらされる勉強」に嫌気が差した子どものモチベーションは下がるばかり。そんな悪循環に悩んだ経験はないだろうか。しかし、大人が問い掛け方を少し工夫するだけで、子どもたちのやる気を引き出すことができるかもし

れない。山形市の市民団体「魔法の質問やまがたキッズ」は、こうした質問の仕方を広めようと昨年4月から活動。山形市で1日に開いた講座ではスポーツメンタルコーチの藤代圭一さん(東京)が講師を務め、子どもたちが自ら動きたくなるような問い掛け方をアドバイスした。以下はその要旨。

### 山形の市民団体が講座

## 子どもへの問い掛けのこつは



# やる気引き出す魔法



### 毎月講座開催、出前も

今回の講座を主催した画センター「フアール」は「魔法の質問やまがたキッズ」は昨年4月に発足した市民団体。毎月、子どもたちのやる気を引き出す質問に関する講座を企画している。次回は30日に開催予定で、参加者を募集している。

「子どもへのやる気を引き出す魔法の質問」と題した講座は30日午前10時～11時半に市男女共同参画センター「フアール」で開く。講師は、東京在住のスポーツメンタルコーチの藤代圭一さん(9745)3746。

笑顔が飛び交う中で行われたワークショップ形式の講座。やる気を引き出す質問について考えた。＝山形市男女共同参画センター「フアール」

の雰囲気は良くするための質問。「言われてうれしい言葉は?」「言われたら嫌な言葉は?」をみんなに話し合ってもらい、チームとしてどんな言葉を大切にしたいかを考える機会をつくってほしい。言われてうれしい言葉が飛び交うことで、チームの雰囲気は格段に良くなる。

最初は「ウサギとカメ」の話をした。競走の間、ウサギとカメはそれぞれ何をしていたらいいか。質問に対して自分なりに答えを考え、ゴールを見る。ウサギはライバルとしてカメの姿を見ていたと思う。一方のカメはゴールを見ていたのではな

子どもたちの潜在力を引き出す秘訣(ひけつ)をアドバイスするスポーツメンタルコーチの藤代圭一さん

藤代圭一(ふじしろ・けいいち)さんは2010年からフリーランスのメンタルコーチとして活動。全国の小中高校で「子どものやる気を引き出す」「チームの作り方」をテーマにした講演を行っているほか、スポーツスクール、スポーツ少年団などでワークショップ形式の講座を開催。これまで選手、保護者ら3000人以上を指導してきた実績がある。藤代さんのホームページは<http://shimt.jp>

## 「なぜ」ではなく「どうする」

「なぜ」ではなく「どうする」... 質問は「WHY? (なぜ)」であってはいけません。それは「尋問」になる。「なぜシュートを決められなかったの?」という問い掛けには「グラウンドの状況が悪かったから」などと言いつつ返ってくる。子どもたちを伸ばすための質問なのに、彼らをおとしめることになる。だから質問は「HOW? (どのようにすれば)」であるべきだ。

「サッカースクールである日、一人で練習している子どもがいた。チームワークを重視する僕らみんなと一緒に練習させようとしたが、どうしても言うことを聞かず、怒りそうになった。彼に理由を聞いてみた。「前の試合でシュートを外して負けたから、今は一人でシュートを練習したい」。彼なりに大切にしている思いがあることに気付いた。大人の思いを押しつけてはいけません。一人一人、価値観は違う。理由も聞かずに排除するのはなく、子どもの話をきちんと聞いてほしい。そこから新たな発見と行動が生まれる。

ご意見、ご感想をお待ちしております。「キラリ写真館」では、親が撮影したわが子の写真を募集しています。元気いっぱい遊ぶ様子や何かに夢中になっている姿など、とっておきの瞬間を収めた1枚を送ってください。(居住地、親と子の年齢、親は氏名かペンネーム、子は長男・長女などの続柄を明記) ファクス023(641)3106、メールkosodate@yamagata-np.jp、〒990-8550、山形市旅籠町2の5の12、山形新聞報道部子育て係まで。